

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成22年4月1日  
(第62期) 至 平成23年3月31日

株式会社 **ミスターマックス**

(商号 株式会社 **MrMax**)

(E03103)

## 目次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	3
4. 関係会社の状況	4
5. 従業員の状況	4
第2 事業の状況	5
1. 業績等の概要	5
2. 仕入及び販売の状況	6
3. 対処すべき課題	8
4. 事業等のリスク	9
5. 経営上の重要な契約等	10
6. 研究開発活動	10
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	10
第3 設備の状況	11
1. 設備投資等の概要	11
2. 主要な設備の状況	11
3. 設備の新設、除却等の計画	12
第4 提出会社の状況	13
1. 株式等の状況	13
(1) 株式の総数等	13
(2) 新株予約権等の状況	13
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	13
(4) ライツプランの内容	13
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	13
(6) 所有者別状況	13
(7) 大株主の状況	14
(8) 議決権の状況	14
(9) ストックオプション制度の内容	15
2. 自己株式の取得等の状況	15
3. 配当政策	16
4. 株価の推移	16
5. 役員の状況	17
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	20
(1) コーポレート・ガバナンスの状況	20
(2) 監査報酬の内容等	23
第5 経理の状況	24
1. 財務諸表等	25
(1) 財務諸表	25
(2) 主な資産及び負債の内容	57
(3) その他	61
第6 提出会社の株式事務の概要	62
第7 提出会社の参考情報	63
1. 提出会社の親会社等の情報	63
2. その他の参考情報	63
第二部 提出会社の保証会社等の情報	64

[監査報告書]

[内部統制報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月24日
【事業年度】	第62期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
【会社名】	株式会社 ミスターマックス（商号 株式会社M r M a x）
【英訳名】	MR MAX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平野 能章
【本店の所在の場所】	福岡市東区松田一丁目5番7号
【電話番号】	福岡（092）623-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部財務部長 葛原 亨裕
【最寄りの連絡場所】	福岡市東区松田一丁目5番7号
【電話番号】	福岡（092）623-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部財務部長 葛原 亨裕
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (百万円)	89,373	95,298	95,345	—	—
不動産賃貸収入 (百万円)	3,893	4,260	4,310	—	—
経常利益 (百万円)	1,327	879	821	—	—
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	206	665	△5,085	—	—
純資産額 (百万円)	27,735	27,601	21,417	—	—
総資産額 (百万円)	76,993	76,375	70,225	—	—
1株当たり純資産額 (円)	773.60	782.69	640.60	—	—
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(△) (円)	5.70	18.74	△147.51	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	5.70	18.74	—	—	—
自己資本比率 (%)	35.9	36.1	30.5	—	—
自己資本利益率 (%)	0.7	2.4	—	—	—
株価収益率 (倍)	100.5	23.2	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,374	6	4,289	—	—
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△1,521	△1,783	△1,567	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△589	891	△1,797	—	—
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	2,136	1,250	2,178	—	—
従業員数 (人)	743	781	814	—	—
(外、平均臨時雇用者数)	(1,369)	(1,535)	(1,576)	(—)	(—)

(注) 1. 売上高には、消費税等（消費税及び地方消費税をいう。以下同じ）は含まれておりません。

2. 第60期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第60期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

4. 連結経営指標等の第61期以降につきましては、連結子会社がなくなったため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期
決算年月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月
売上高 (百万円)	86,848	92,494	92,131	99,178	99,604
不動産賃貸収入 (百万円)	3,940	4,317	4,366	4,303	4,313
経常利益 (百万円)	1,323	932	861	989	633
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	110	655	△5,078	891	18
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	—	—	—	—	—
資本金 (百万円)	10,229	10,229	10,229	10,229	10,229
発行済株式総数 (千株)	39,611	39,611	39,611	39,611	39,611
純資産額 (百万円)	27,685	27,568	21,407	21,995	21,608
総資産額 (百万円)	76,633	75,760	69,652	70,737	73,776
1株当たり純資産額 (円)	773.91	782.71	640.81	658.44	650.52
1株当たり配当額 (円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(5.00)	(5.00)	(5.00)	(5.00)	(5.00)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(△) (円)	3.05	18.45	△147.33	26.69	0.55
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	3.05	18.45	—	—	—
自己資本比率 (%)	36.1	36.4	30.7	31.1	29.3
自己資本利益率 (%)	0.4	2.4	—	4.1	0.1
株価収益率 (倍)	187.9	23.6	—	15.5	545.5
配当性向 (%)	327.9	54.2	—	37.5	1,818.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	—	—	—	2,467	1,687
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	—	—	—	△2,603	△2,996
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	—	—	—	△582	1,965
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	—	—	—	1,364	2,014
従業員数 (人)	722	751	785	795	792
(外、平均臨時雇用者数)	(1,332)	(1,487)	(1,517)	(1,658)	(1,844)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第60期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第61期及び第62期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第60期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第60期までの、持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高については、連結財務諸表を作成しているため記載しておりません。

6. 第61期及び第62期の持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

## 2 【沿革】

当社（昭和25年12月8日設立）は、昭和54年8月31日を合併期日として、福岡県田川市本町7番20号所在の平野電機株式会社（実質上の存続会社）の株式額面金額を変更するため、同社を吸収合併いたしました。合併前の当社は休業状態であり、従って、法律上消滅した旧平野電機株式会社が実質上の存続会社であるため、特に記載のない限り、実質上の存続会社に関して記載しております。

昭和25年1月	有限会社平野ラジオ電気商会を設立
昭和36年3月	平野電機株式会社に改組
昭和54年8月	平野電機株式会社（旧商号 株式会社江東容器）と合併
昭和55年8月	平野電機株式会社を株式会社ミスターマックスに商号変更
昭和59年8月	株式会社ミスターマックスを株式会社MrMaxに商号変更
昭和61年4月	福岡証券取引所に上場
昭和62年4月	大阪証券取引所市場第二部に上場
昭和63年9月	福岡市東区に本社移転
平成3年11月	決算期を8月20日から3月31日に変更
平成4年4月	POSシステムの導入
平成6年9月	大阪証券取引所市場第一部に上場
平成6年12月	東京証券取引所市場第一部に上場
平成7年7月	POR（荷受け時点管理）システムの導入
平成8年4月	東京本部設置
平成12年9月	国際標準化規格ISO14001を取得
平成12年10月	子会社2社（株式会社ピーシーデポマックス及び株式会社ネットマックス）を設立
平成15年3月	西日本物流センター（現 MrMax福岡物流センター）開設
平成15年9月	大阪証券取引所市場第一部上場を廃止
平成15年10月	関東物流センター開設
平成19年9月	関東物流センター（現MrMax埼玉物流センター）移設
平成21年7月	株式会社ピーシーデポマックスの持分を売却
平成21年12月	株式会社ネットマックスを吸収合併

## 3 【事業の内容】

当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っておりません。

当社の事業内容、取扱い商品及び販売形態（業態）の位置付け等は、次のとおりであります。

事業区分	主要商品	販売形態（業態）
小売及びこれに付随する業務	(家電) テレビ等の映像機器、オーディオ、通信機器、 冷蔵庫等の台所用家電品、洗濯機等の家事用家電品、 照明用品、エアコン等の季節家電品等の販売 (アパレル) 実用衣料品、子供・ベビー衣料品、紳士衣料品、婦人衣料品、 シューズ、服飾雑貨品、時計・宝飾品等の販売 (ライフスタイル) ペット用品、自転車、スポーツ用品、カー用品、玩具、文具、 園芸・DIY用品等の販売 (ホームリビング) 台所用用品、日用雑貨品、インテリア・収納用品等の販売 (HBC (Health and Beauty Care) ) 洗剤・化粧品、紙綿、医薬品等の販売 (食品) 菓子、飲料、加工食品、米、酒、日配食品等の販売	店頭 インターネット

なお、当社は小売及びこれに付随する業務を行っており、当該事業以外に事業別セグメントの種類がなく、また関係会社も存在していないため、事業系統図の記載を省略しております。

#### 4 【関係会社の状況】

- (1) 親会社  
該当事項はありません。
- (2) 連結子会社  
該当事項はありません。
- (3) 持分法適用関連会社  
該当事項はありません。
- (4) その他の関係会社  
該当事項はありません。

#### 5 【従業員の状況】

当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っていません。

##### (1) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
792(1,844)	35.8	11.2	4,709,675

- (注) 1. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。  
2. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数（パートタイマー、アルバイト、嘱託社員及び人材会社からの派遣社員を含みます。）は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

##### (2) 労働組合の状況

当社の労働組合の状況は、次のとおりであります。

- ① 名称            U I ゼンセン同盟M r M a x 労働組合
- ② 結成年月日    平成2年3月26日
- ③ 組合員数       617名
- ④ 労使関係       労使関係は良好に推移しており、特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っておりません。

#### (1) 業績

当事業年度は、リーマンショックに端を発した景気低迷の影響に緩やかな改善の動きがみられたものの、雇用や所得などは引き続き厳しい状況が続きました。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、消費の先行きも不透明な状況となっております。

このような消費環境のもと、「普段の暮らしをより豊かに、より便利に、より楽しく」を経営理念とする当社は、商品政策において、「価値ある安さ」をお客様に提供するべく、特に購買頻度の高い、普段の暮らしに直結する商品について、年間を通じて低価格を実現する取り組みを強化してまいりました。その方策の1つとして、品質と価格のバランスが優れたプライベート・ブランド商品の開発を積極的に行っており、当事業年度におけるプライベート・ブランド商品の売上高は、前期比27.0%増の163億61百万円となりました。

また、ご家庭に必要な商品を一箇所でお買い物していただけるように、取扱い商品の幅を広げる取り組みも行っております。薬事法改正以降医薬品の導入を助け、当事業年度中に医薬品取扱店舗は7店舗増加し、20店舗となりました。

当事業年度の新規出店につきましては、8月に南船橋店（千葉県船橋市）、11月に春日店（福岡県春日市）、12月に越谷店（埼玉県越谷市）、吉塚店（福岡県福岡市）を開店し、期末店舗数は48店舗となりました。春日店と越谷店は、従来のMrMaxの品揃えに生鮮食品を加えた「スーパーセンター」として出店し、当事業年度末における「スーパーセンター」は4店舗となりました。南船橋店はディスカウントストアの大型店（2,600坪）、吉塚店は中型店（1,220坪）の出店であり、出店形態の多様化による多店化を進めております。また、既存店の活性化として、4月に八本松店（広島県東広島市）を増床して「スーパーセンター」へ変更したほか、10月に長崎店（長崎県長崎市）、土井店（福岡県福岡市）の全面改装を行ないました。

当事業年度の経営成績は、売上高に不動産賃貸収入を加えた営業収益が1,039億18百万円（前期比0.4%増）と増収となりました。当事業年度より、商品が顧客に販売されると同時に商品の仕入が発生する、いわゆる消化仕入と呼ばれる取引について、従来は売上高及び売上原価を総額で計上しておりましたが、売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法にいたしました。これにより、前事業年度と比べて、当事業年度の売上高及び売上原価は51億22百万円減少しております。従来の計上方法で売上高を計上した場合の当事業年度の営業収益は、4店舗の新店効果もあり、前期比5.4%増の1,090億40百万円となります。

収益面においては、営業収益が増収となったこと、また売上総利益率が改善したことなどにより、営業総利益は前期比5.2%増の252億96百万円となりました。販売費及び一般管理費は、広告宣伝費や物流費を削減する一方で、出店に伴う費用の増加を補えず、営業利益は4億8百万円（前期比45.9%減）、経常利益は6億33百万円（前期比36.0%減）となりました。

当期純利益につきましては、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億5百万円を特別損失に計上したことなどにより、18百万円（前期比97.9%減）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

税引前当期純利益が2億49百万円となり、減価償却費18億49百万円を計上したほか、仕入債務が9億19百万円増加する一方で、たな卸資産が7億66百万円増加し、法人税等支払に4億43百万円を支出した結果、営業活動により得られた資金は16億87百万円（前期比31.6%減）となりました。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得による支出19億62百万円、差入敷金・保証金の差入による支出7億31百万円などにより、投資活動の結果使用した資金は29億96百万円（前期比15.1%増）となりました。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

借入金の増加24億24百万円に対し、配当金の支払い3億34百万円などの支出があり、財務活動により得られた資金は、19億65百万円（前期は5億82百万円の使用）となりました。

これらの結果、当事業年度末における現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ6億50百万円増加し、20億14百万円となりました。

## 2【仕入及び販売の状況】

当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っていません。

### (1) 仕入実績

当事業年度の仕入実績を部門別に示しますと、次のとおりであります。

なお、下記の金額には消費税等は含まれておりません。

部門別	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	仕入高 (百万円)	前年同期比 (%)
食品	20,721	115.5
家電	18,143	101.5
HBC	15,659	107.2
ライフスタイル	12,045	86.3
ホームリビング	7,923	100.3
アパレル	4,876	84.9
その他	17	1.3
合計	79,387	100.0

### (2) 販売実績

下記の金額には消費税等は含まれておりません。

#### ① 地区別売上高

当事業年度の販売実績を地区別に示しますと、次のとおりであります。

地区別	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	売上高 (百万円)	前年同期比 (%)
九州地区	59,072	100.7
中国地区	17,501	109.1
関東地区	22,576	95.4
その他	453	54.8
合計	99,604	100.4

(注) 1. 当事業年度において、南船橋店(千葉県船橋市)、春日店(福岡県春日市)、越谷店(埼玉県越谷市)、吉塚店(福岡市東区)の4店舗を開店いたしました。

2. 「その他」は、インターネット販売の売上高です。

② 部門別売上高

当事業年度の販売実績を部門別に示しますと、次のとおりであります。

部門別	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	売上高 (百万円)	前年同期比 (%)
食品	23,953	115.6
家電	21,850	101.2
HBC	18,913	107.3
ライフスタイル	16,014	87.7
ホームリビング	11,602	100.7
アパレル	7,199	89.2
その他	70	5.1
合計	99,604	100.4

③ 単位当たり売上高

項目	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	前年同期比 (%)
売上高 (百万円)	99,604	100.4
売場面積 (㎡)	266,027	107.2
1㎡当たり売上高 (百万円)	0.3	93.7
従業員数 (人)	2,652	107.9
1人当たり売上高 (百万円)	37	93.0

(注) 1. 従業員数には、パートタイマー、アルバイト、嘱託社員及び人材会社からの派遣社員を含んでおります。

2. 売場面積及び従業員数は、いずれも期中平均であります。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) 「価値ある安さ」の追求

少子高齢化、地方と都市の格差、所得格差の拡大など、消費の先行きに不透明な要素が広がる一方で、家電専門店やドラッグストアが食料品や雑貨の販売を行うなど、業態の垣根は低くなり、競争はますます厳しさを増しています。

当社が目指す「ディスカウントストア」の強みは、決して「安かろう、悪かろう」ではなく、デザインや品質にも満足していただける「価値ある安さ」です。

当事業年度におきましては、エコポイント対象地上波デジタル液晶テレビや涼感商品「クールスカーフ」、インスタント・スープなどプライベート・ブランド商品の強化に取り組んでまいりましたが、引き続き平成24年3月期におきましてもプライベート・ブランド商品づくりを推進し、「価値ある安さ」の提供に取り組んでまいります。

#### (2) 出店形態の多様化による多店化の推進

出店形態を多様化し、出店を加速させる取り組みを行なっております。そのための収益モデルとして、「ディスカウントストア」を基本フォーマットに、2,000坪クラスの大型店、1,200坪クラスの中型店、700坪クラスの小型店のディスカウントストアの3つのタイプと、従来のディスカウントストアの品揃えに生鮮食品を加えた「スーパーセンター」を合わせた4つの店舗モデルの構築を進めております。商圈に応じた柔軟な出店を行い、多店化を進めてまいります。

当事業年度におきましては、スーパーセンター2店舗、大型店1店舗、中型店1店舗を出店いたしました。平成24年3月期におきましては、新規出店3店舗を予定しております。店舗数の増加により、より多くのお客様にMrMaxの「価値ある安さ」に満足していただけるよう努めてまいります。

#### (3) ローコスト・オペレーションへの取り組み

「価値ある安さ」を実現し、店舗ごとの営業利益の増大を図るために、仕入先からお客様にお買いただくまでの商品の流れを効率化し、店舗での作業改革を継続してまいります。当事業年度におきましては、積載効率の向上や店舗配送の効率化を行なうことで、店舗数を増やしながらも物流費を削減する成果を得ました。今後、さらに物流業務を効率化することによりコストの削減を進めてまいります。また、仕入先との情報共有の密度を高め、自動補充システムの対象商品を拡大し、お客様にご満足いただける売場をローコストで実現する取り組みを継続してまいります。

#### (4) 法令遵守への取り組み

ミスターマックスグループの社員1人1人が果たすべき行動指針をまとめた「ミスターマックスグループ行動規範」及び各種法令の遵守状況について、弁護士と危機管理の専門家を社外委員とする「コンプライアンス委員会」を定期的に開催し、問題点の早期発見と改善策の徹底に努めております。

#### 4 【事業等のリスク】

当社の経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末（平成23年3月31日）現在において当社が判断したものであります。

##### (1) 経済状況、気象状況について

当社の収入である一般消費者への商品販売収入及び当社が運営するショッピングセンターのテナントからの賃貸収入は、個人消費動向の影響を受けます。出店地域の景気や雇用情勢、人口構成の変化のほか、冷夏、暖冬等の気象の変化は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 競合について

当社は、平成23年3月31日現在、九州・中国地方と関東地方に48店舗を展開し、家庭用品、家電品、衣料品等普段の暮らしに必要な商品を取り扱っておりますが、当社の出店エリアにおいて、それぞれの分野の専門店、大手スーパー、ホームセンター、ドラッグストア等様々な業態の店舗と競合しております。また、当社出店エリアへの他業態の今後の新規出店によっては、競争が激化する可能性もあります。当社は、「安さ」と「買い物のしやすさ」を提供することにより、ディスカウントストアという業態を確立し、他業態との差別化を図っていく所存であります。こうした競合・競争は当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 在庫評価について

当社の取扱い商品は、普段の暮らしに必要なベーシックな品揃えが中心ですが、ライフサイクルの短いデジタル家電製品や、映像・オーディオ・ゲームソフト、季節商品等では、陳腐化により荒利益率の低下や商品評価減等により、当社の業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 保有固定資産の減損の可能性について

今後、固定資産を所有する事業単位（店舗あるいはショッピングセンター）ごとの収益が悪化する等「固定資産の減損に係る会計基準」による減損を認識した場合には、評価損の発生により当社の業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 差入保証金について

当社は、店舗を賃借する場合に、契約時に賃貸人に対し保証金を差し入れる場合があります。

当該保証金は期間満了等による契約解消時に契約に従い返還されることになっておりますが、賃貸人の経済的破綻等によりその一部又は全額が回収できなくなる可能性があります。また、契約に定められた期間満了日前に中途解約をした場合は、契約内容に従って契約違約金の支払いが必要となる場合があります。

##### (6) 会計制度、税制等について

国際会計基準や税制の新たな導入・変更により、当社の業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (7) 公的規制について

当社は、通商、労働、独占禁止、下請、特許、消費者、個人情報保護、租税、貿易、外国為替、立地、環境・リサイクル、廃棄物処理等の法規制の適用を受けております。

当社は平成16年8月にコンプライアンス委員会を組織するなど法令遵守体制の強化に努めておりますが、これらの法規制を遵守できなかった場合は、企業イメージの損傷による売上の減少、対応のためのコストの増加につながり、当社の業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (8) 地震等の災害について

当社は、お客様の安全確保と営業の継続又は速やかな復旧を目的とした緊急事態対応マニュアルを整備し、できる限り対策を講じておりますが、今後、当社の店舗が集積する九州・中国地方と関東地方において大規模な災害が発生した場合には、休業、建物・商品の損害などにより、当社の業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 商品の安全性及び表示について

当社は、お客様に安全な商品を提供するとともに正確な情報をお伝えするよう努めておりますが、当社の取扱い商品について重大な事故が生じた場合には、商品回収や製造物責任賠償が生じる場合があります、商品の廃棄ロスを含め、当社の業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 今後の金利変動による影響について

当社は、有利子負債の圧縮とともに金利上昇の影響をできるだけ軽減できるよう努めておりますが、今後の資金調達の動向によっては、金利変動に伴う支払利息負担の増加が、当社の業績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末（平成23年3月31日）現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されております。

財務諸表における報告数値のうち一部の数値については、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる見積りを基にその算出を行っておりますが、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

当社の財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 財務諸表等」の「重要な会計方針」に記載しております。

(2) 当事業年度の財政状態の分析

当事業年度末における当社の資産合計は、店舗数の増加に伴う商品在庫の増加や、現金及び預金の増加などにより、前事業年度末に比べて30億39百万円増加し、737億76百万円となりました。

負債は、借入金や買掛金の増加などにより、前事業年度末に比べ34億25百万円増加し、521億67百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の減少などにより、前事業年度末に比べ3億86百万円減少し、216億8百万円となりました。

(3) 当事業年度の経営成績の分析

当事業年度の経営成績の分析については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1)業績」に記載のとおりであります。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因、経営者の問題認識と今後の方針について

経営成績に重要な影響を与える要因、経営者の問題認識と今後の方針については、「第2 事業の状況 3 対処すべき課題 及び 4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(5) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当事業年度に実施いたしました設備投資の総額は2,324百万円で、その主なものは次のとおりであります（当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っておりません）。

事業所名	投資金額	設備の内容
MrMax春日ショッピングセンター	973百万円	店舗
MrMax吉塚店	504百万円	店舗

#### 2【主要な設備の状況】

当社は、国内に48店舗を有しており、うち27店舗についてはショッピングセンターとして運営・管理しております。なお、主要な設備は次のとおりであります（当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っておりません）。

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地等)	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
		建物 (百万円)	構築物 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
本部 (福岡市東区)	統括業務施設	286	10	475 (2,297)	—	393	1,167	174
東京本部 (東京都港区)	統括業務施設	7	—	—	—	1	9	23
九州地区	営業用設備 物流センター	10,365	555	21,634 (416,958)	439	457	33,451	369
中国地区	営業用設備	2,592	111	3,862 (103,666)	773	134	7,475	98
関東地区	営業用設備 物流センター	2,053	103	990 (35,832)	—	278	3,425	128

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具3百万円、器具備品1,262百万円であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料（オペレーティング・リースを含む）は4,264百万円であります。

3. リース契約による主な賃借設備は、次のとおりであります。

名称	当期リース料 (百万円)	リース期間	リース契約残高 (百万円)
店舗・コンピューター設備一式他 (所有権移転外ファイナンス・リース)	832	5～10年	6,125
土地・店舗 (オペレーティング・リース)	2,226	主に20年	22,446

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当事業年度末現在における重要な設備の新設、改修等に係る投資予定金額は、1,532百万円であり、その所要資金については、自己資金、借入金にてまかなう予定であります。

重要な設備の新設、除却等の計画は、次のとおりであります（当社は小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っておりません）。

#### (1) 新設

事業所名	設備の内容	投資予定金額（百万円）		資金調達方法	着手及び完了予定年月		摘要
		総額	既支払額		着手	完了	
京王堀之内店	店舗新設	306	—	自己資金及び借入金	平成22年9月	平成23年5月	平成23年5月開店
姪浜店	店舗新設	118	—	自己資金及び借入金	平成23年4月	平成23年6月	平成23年6月開店
取手物件	店舗新設	887	10	自己資金及び借入金	平成23年5月	平成23年12月	平成23年12月開店予定
計		1,311	10				

#### (2) 改修

事業所名	設備の内容	投資予定金額（百万円）		資金調達方法	着手及び完了予定年月		摘要
		総額	既支払額		着手	完了	
本城店	省エネ改修	116	—	自己資金及び借入金	平成23年10月	平成23年11月	—
大牟田店	省エネ改修	105	—	自己資金及び借入金	平成23年10月	平成23年11月	—
計		221	—				

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2. 投資予定金額には敷金・保証金を含んでおりません。

#### (3) 除却及び売却

経常的な設備の更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月24日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通 株式	39,611,134	39,611,134	東京証券取引所市場第一部 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	39,611,134	39,611,134	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成8年3月31日	171,252	39,611,134	155	10,229	155	9,944

(注) 上記の増加は、転換社債の株式転換(平成7年4月1日～平成8年3月31日)によるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他 の法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	35	30	148	54	1	7,830	8,098	—
所有株式数 (単元)	—	61,668	2,475	43,256	89,012	40	197,690	394,141	197,034
所有株式数の 割合(%)	—	15.65	0.63	10.97	22.58	0.01	50.16	100.00	—

- (注) 1. 自己株式6,393,582株は「個人その他」に63,935単元、「単元未満株式の状況」に82株含めて記載しております。なお、自己株式6,393,582株は株主名簿記載上の株式数であり、平成23年3月31日現在の実保有株式数は6,393,182株であります。
2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の中には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ35単元及び67株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
ヒラノマネージメントビーヴィ (常任代理人 UBS証券会社)	Herengracht548, 1017CG Amsterdam, the Netherlands (東京都千代田区大手町一丁目5番1号)	6,435.5	16.25
平野 能章	福岡市東区	1,947.2	4.92
有限会社 Waiz Holdings	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,878.3	4.74
株式会社 福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	1,414.2	3.57
MrMax社員持株会	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,325.8	3.35
ミスターマックス取引先持株会	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,324.5	3.34
日本トラスティ・サービス 信託銀行 株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,289.5	3.26
日本興亜損害保険 株式会社	東京都千代田区霞が関三丁目7番3号	801.2	2.02
平野 耕司	福岡市東区	763.6	1.93
平野 淳子	福岡市東区	743.4	1.88
計	—	17,923.6	45.25

(注) 提出会社は自己株式 6,393.1千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 6,393,100	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 33,021,000	330,210	—
単元未満株式	普通株式 197,034	—	一単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	39,611,134	—	—
総株主の議決権	—	330,210	—

(注) 上記「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、3,500株 (議決権の数35個) 含まれております。

②【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
株式会社ミスターマックス	福岡市東区松田 一丁目5番7号	6,393,100	—	6,393,100	16.1
計	—	6,393,100	—	6,393,100	16.1

（注） 上記のほか株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が400株（議決権の数4個）あります。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」の欄の普通株式に含めております。

（9）【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び7号に該当する普通株式の取得

（1）【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

（2）【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数（株）	価額の総額（円）
取締役会（平成22年11月11日）での決議状況 （取得期間 平成22年11月12日～平成23年3月22日）	350,000	100,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	185,300	50,567,700
残存決議株式の総数及び価額の総額	164,700	49,432,300
当事業年度の末日現在の未行使割合（%）	47.1	49.4
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合（%）	47.1	49.4

（3）【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数（株）	価額の総額（円）
当事業年度における取得自己株式	1,778	594,199
当期間における取得自己株式	116	32,894

（注）当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (単元未満株式の売渡し)	48	19,508	58	23,548
保有自己株式数	6,393,182	—	6,393,240	—

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡しによる株式数は含めておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、配当の継続を重視しており、会社の経営成績及び財政状態並びに今後の見通し等を総合的に勘案しながら、当面は配当性向30%以上を目標に安定的な配当の実施に努めてまいります。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、平成23年6月24日開催の第62回定時株主総会において1株につき5円を実施することが決議されました。中間配当 (1株当たり5円) と合わせ、当事業年度の1株当たりの配当金は年10円となりました。

内部留保資金は主として、店舗・ショッピングセンターの新設・増床・改装や、物流・仕入に関する情報システム投資、また、採用・教育・配転など組織力強化のための人材投資に活用し、業容の拡大と経営基盤の強化につなげてまいります。

なお、当社は、会社法第454条第5項の規定に従い、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる」旨を定款に定めております。

第62期の剰余金の配当は次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年10月22日取締役会決議	167	5.00
平成23年6月24日定時株主総会決議	166	5.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高 (円)	743	612	529	524	454
最低 (円)	396	341	165	377	210

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	平成22年11月	平成22年12月	平成23年1月	平成23年2月	平成23年3月
最高 (円)	369	290	304	302	308	303
最低 (円)	255	255	274	285	285	210

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	最高経営責任者 (CEO) 兼 最高執行責任者 (COO)	平野 能章	昭和33年7月15日生	昭和61年9月 当社入社 昭和62年4月 ノムラ・セキュリティーズ・イン ターナショナルへ出向 平成元年4月 当社営業企画部長 平成元年11月 当社取締役営業企画部長に就任 平成2年11月 当社常務取締役に就任 平成3年11月 当社専務取締役に就任 平成4年7月 当社代表取締役副社長に就任 平成7年6月 当社代表取締役社長に就任 (現任) 平成20年4月 当社最高経営責任者兼最高執行責任 者に就任 (現任)	(注) 2	1,947.2
取締役 執行役員	管理本部長	小田 康德	昭和30年3月26日生	昭和52年4月 当社入社 平成6年7月 当社開発部長 平成7年6月 当社取締役開発部長に就任 平成8年4月 当社取締役SC開発部長に就任 平成15年6月 当社常務取締役開発本部長に就任 平成20年4月 当社取締役常務執行役員開発本部 長に就任 平成21年6月 当社取締役執行役員開発本部長に 就任 平成23年6月 当社取締役執行役員管理本部長に 就任 (現任)	(注) 2	53.1
取締役 執行役員	商品本部長	佐藤 昭彦	昭和30年10月7日生	昭和53年4月 当社入社 平成10年1月 当社西日本本部商品部長 平成11年6月 当社取締役商品部長に就任 平成15年6月 当社常務取締役営業本部長に就任 平成18年5月 当社常務取締役湘南藤沢店店長に 就任 平成19年4月 当社常務取締役営業本部長に就任 平成20年4月 当社取締役常務執行役員営業本部 長に就任 平成21年6月 当社取締役執行役員営業本部長に 就任 平成22年7月 当社取締役執行役員商品本部長に 就任 (現任)	(注) 2	81.3
取締役 執行役員	開発本部長	中野 英一	昭和35年8月4日生	昭和59年4月 株式会社太陽神戸銀行 (現株式会 社三井住友銀行) 入行 平成12年4月 当社入社 平成14年7月 当社財務部長 平成15年6月 当社取締役財務部長に就任 平成18年7月 当社取締役経財本部長に就任 平成22年7月 当社取締役執行役員管理本部長に 就任 平成23年6月 当社取締役執行役員開発本部長に 就任 (現任)	(注) 2	49.6
取締役 執行役員	サプライ・チ ェーン・マネ ジメント本部 長	杉本 定士	昭和33年8月27日生	昭和57年4月 株式会社西友入社 平成17年3月 同社執行役シニアバイスプレジデ ント情報システム本部担当 平成20年4月 当社入社 平成20年6月 当社執行役員サプライ・チェー ン・マネジメント本部長に就任 平成21年6月 当社取締役執行役員サプライ・チ ェーン・マネジメント本部長に就 任 (現任)	(注) 2	5.0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員	営業本部長	内座 優典	昭和38年10月26日生	昭和61年3月 当社入社 平成15年8月 当社商品第2部長 平成20年4月 当社営業本部第3店舗運営部長 平成21年6月 当社執行役員店舗運営部長 平成22年7月 当社執行役員営業本部長 平成23年6月 当社取締役執行役員営業本部長に 就任(現任)	(注)2	—
常勤監査役		樋口 一夫	昭和24年8月9日生	昭和47年4月 当社入社 平成3年11月 当社商品部長 平成6年3月 当社総務部長 平成7年6月 当社取締役総務部長に就任 平成8年4月 当社取締役商品部長に就任 平成10年1月 当社取締役総務部長に就任 平成11年4月 当社取締役開発部長に就任 平成15年6月 当社常務取締役商品本部長に就任 平成17年1月 当社常務取締役管理本部長に就任 平成20年4月 当社取締役常務執行役員管理本部 長に就任 平成20年6月 当社監査役に就任(現任)	(注)3	62.2
常勤監査役		吉田 康彦	昭和31年2月10日生	昭和53年4月 当社入社 平成10年9月 当社経営企画部長 平成12年3月 当社e-commerce推進部長 平成13年11月 当社物流部長 平成15年6月 当社取締役物流部長に就任 平成17年1月 当社取締役商品本部長に就任 平成20年4月 当社取締役執行役員商品本部長に 就任 平成20年10月 当社取締役執行役員経営企画室長 に就任 平成23年6月 当社監査役に就任(現任)	(注)4	50.2
監査役		古屋 泰生	昭和19年1月31日生	昭和42年3月 新野公認会計士事務所入所 昭和49年10月 監査法人第一監査事務所福岡事務 所入所(現新日本有限責任監査法 人) 昭和55年8月 センチュリー監査法人社員(現新 日本有限責任監査法人) 昭和57年1月 古屋公認会計士事務所開設(現在 に至る) 平成6年12月 センチュリー監査法人代表社員 (現新日本有限責任監査法人) 平成21年6月 新日本有限責任監査法人 定年退職 平成23年6月 当社監査役に就任(現任)	(注) 1、4	—
監査役		多川 一成	昭和33年7月18日生	平成5年4月 弁護士登録(福岡県弁護士会) 平成8年4月 岩崎・多川法律事務所(現大名総 合法律事務所)を共同経営 平成18年4月 福岡県弁護士会 総務事務局長 平成20年4月 福岡県弁護士会 広報委員会委員 長(現在に至る) 平成23年6月 当社監査役に就任(現任)	(注) 1、4	—
計						2,248.7

(注) 1. 監査役の古屋泰生及び多川一成の両名は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 平成23年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
3. 平成20年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
4. 平成23年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役2名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
渡邊 洋祐	昭和49年4月26日生	平成12年4月 弁護士登録（福岡県弁護士会）徳永・松崎・斉藤法律事務所入所 平成18年3月 徳永・松崎・斉藤法律事務所退所 平成18年4月 渡邊洋祐法律事務所設立（現在に至る） 平成18年10月 福岡簡易裁判所民事調停官就任 平成20年9月 福岡簡易裁判所民事調停官任期満了 平成21年4月 西南学院大学法科大学院 非常勤講師就任（現在に至る）	—
簾内 学	昭和37年8月16日生	昭和61年3月 当社入社 平成22年7月 当社管理部長 平成23年6月 当社総務部長（現在に至る）	—



#### ホ. 会計監査の状況

会計監査は、新日本有限責任監査法人との間で監査契約を締結し、法定監査を受けております。会計監査人と監査役会との連携を図り、会計監査の実効性の向上に努めております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員 工藤 雅春	新日本有限責任監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 村田 賢治	新日本有限責任監査法人

※継続監査年数については全員7年以内であるため記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成は監査法人の監査計画に基づき、公認会計士3名及び会計士補等14名で構成されております。

#### へ. 社外監査役との関係

社外監査役である古屋泰生氏及び多川一成氏と当社との間に、人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はなく、十分な独立性が確保できると判断しております。

### ③ リスク管理体制の整備状況

#### イ. 取締役会によるリスク管理

定例取締役会において、営業状況、資金繰りを含めた財務状況、店舗開発の進捗状況が報告されているほか、必要に応じて臨時取締役会が開催され、リスクへの早期対応を行っております。

#### ロ. 内部統制システムの活用

監査部員が、各店舗及び本部の各部署を定期的に監査し、リスクの所在を早期発見し、業務執行責任者である社長に急報できるよう体制を整えております。

#### ハ. 緊急事態への対応

緊急事態対応マニュアルが、各部署及び幹部社員の自宅に常備されており、早期に対策本部を設置できる体制を整えております。

#### ニ. クレーム事例集の活用

各店舗及び本部で発生した事故、クレームを月次で取りまとめ、同様の問題が発生した場合の対応策を明記した上で、電子掲示板に掲載、社内で情報を共有するとともに、再発防止に向けた教材として活用しております。

#### ホ. コンプライアンス体制

当社グループのコンプライアンス体制構築とその徹底、推進並びに法令等や行動規範に違反する行為に対処するため、当社社長を委員長とし弁護士と危機管理の専門家を社外委員とするコンプライアンス委員会を組織しており、社内監査役もオブザーバーとして出席する定例委員会を定期的に開催し、問題点の早期発見と改善策の徹底に努めております。また、当社グループの役員及び社員が守るべき行動規範として、「ミスターマックスグループ行動規範」を制定し、コンプライアンスを重視した経営を明確にしております。さらに、社内（総務部内）・社外（外部弁護士事務所内）に、「ミスターマックス コンプライアンス・ヘルプライン」を設置しており、当社グループの役員及び社員から、法令違反や企業倫理上の問題等に関する相談を受け付け、透明性の高い組織作りに努めております。

④ 役員報酬等

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬等の総額は次のとおりであります。

区分	支給人員	支給額（百万円）				総額
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役	6名	108	—	—	—	108
監査役	1名	10	—	—	—	10
社外役員	2名	6	—	—	—	6
合計	9名	124	—	—	—	124

(注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 取締役及び監査役の報酬額については、平成15年6月27日開催の第54回定時株主総会において、取締役の報酬額を月額1,700万円以内、監査役の報酬額を月額250万円以内と決議いたしております。取締役及び監査役の個別の報酬額については、当社の業績および各人の取締役としての責任の度合を考慮し、取締役会の決議により決定しております。

3. 上記のほか、使用人兼務取締役5名の使用人分給与相当額48百万円を支払っております。

⑤ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
3銘柄 181百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
(前事業年度)  
特定投資株式

銘柄名	株式数	貸借対照表計上金額	保有目的
㈱ふくおかフィナンシャルグループ	395,408株	156百万円	取引基盤強化
㈱西日本シティ銀行	154,081株	42百万円	〃
㈱山口フィナンシャルグループ	10,000株	10百万円	〃

(当事業年度)  
特定投資株式

銘柄名	株式数	貸借対照表計上金額	保有目的
㈱ふくおかフィナンシャルグループ	395,408株	136百万円	取引基盤強化
㈱西日本シティ銀行	154,081株	36百万円	〃
㈱山口フィナンシャルグループ	10,000株	7百万円	〃

ハ. 保有目的が純投資目的の投資株式

当社が、純投資目的で所有する、投資株式の貸借対照表計上額の合計額並びに、受取配当額、売却損益及び評価損益は、以下の通りであります。

区分	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金の 合計額	売却損益の 合計額	評価損益の 合計額
非上場株式	20	8	0	△0	(注)
上記以外の株式	181	138	3	△10	△37

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、評価損益は記載していません。なお、当事業年度において、上記非上場株式について2百万円の減損処理を行っております。

ニ. 保有目的を変更した投資株式

該当事項はありません。

⑥ 社外監査役との間の責任限定契約

当社と社外監査役は、会社法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償請求の限度額は、同法第425条第1項に定める額としております。

⑦ 取締役の定員

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑨ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

イ. 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策等の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

ロ. 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定に従い、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

ハ. 監査役の実任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項に定める監査役（監査役であった者を含む）の責任を、法令の定める限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにすることを目的とするものであります。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
35	—	33	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

会計監査人の報酬の額については、当社の事業規模の観点から合理的監査日数を勘案のうえ決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4. 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するほか、各種セミナーへ参加しております。

1 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,317	1,968
売掛金	1,146	1,239
有価証券	46	46
商品	7,349	8,116
貯蔵品	60	60
前払費用	371	448
繰延税金資産	776	579
未収入金	137	207
未収還付法人税等	—	77
その他	289	356
流動資産合計	11,496	13,101

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
固定資産		
有形固定資産		
建物	30,945	32,512
減価償却累計額	△15,971	△17,204
建物（純額）	※1 14,974	※1 15,307
構築物	4,371	4,505
減価償却累計額	△3,618	△3,724
構築物（純額）	752	781
車両運搬具	35	37
減価償却累計額	△32	△34
車両運搬具（純額）	3	3
工具、器具及び備品	3,784	4,369
減価償却累計額	△2,755	△3,106
工具、器具及び備品（純額）	1,029	1,262
土地	※1 27,367	※1 27,389
リース資産	863	1,309
減価償却累計額	△23	△95
リース資産（純額）	840	1,213
建設仮勘定	6	10
有形固定資産合計	44,974	45,967
無形固定資産		
ソフトウェア	348	438
電話加入権	25	25
無形固定資産合計	373	463
投資その他の資産		
投資有価証券	519	405
出資金	0	0
長期貸付金	282	236
長期前払費用	1,557	1,510
繰延税金資産	434	513
敷金	3,805	4,332
差入保証金	6,261	6,436
店舗賃借仮勘定	392	275
その他	643	539
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	13,892	14,244
固定資産合計	59,241	60,675
資産合計	70,737	73,776

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	7,368	7,316
買掛金	5,816	6,867
1年内返済予定の長期借入金	※1 7,725	※1 8,486
リース債務	66	88
未払金	※2 1,843	※2 1,661
未払費用	24	23
未払法人税等	281	—
前受金	290	163
預り金	1,095	1,112
前受収益	202	198
賞与引当金	391	350
設備関係支払手形	292	114
その他	—	7
流動負債合計	25,398	26,391
固定負債		
長期借入金	※1 14,450	※1 16,112
リース債務	773	1,124
退職給付引当金	478	517
長期前受収益	323	292
長期預り敷金	4,037	3,999
長期預り保証金	3,066	2,675
資産除去債務	—	840
その他	213	213
固定負債合計	23,344	25,776
負債合計	48,742	52,167
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,229	10,229
資本剰余金		
資本準備金	9,944	9,944
その他資本剰余金	6	6
資本剰余金合計	9,951	9,951
利益剰余金		
利益準備金	526	526
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	43	40
別途積立金	2,120	2,120
繰越利益剰余金	1,736	1,424
利益剰余金合計	4,426	4,111
自己株式	△2,542	△2,593
株主資本合計	22,065	21,698
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△74	△85
繰延ヘッジ損益	4	△4
評価・換算差額等合計	△70	△89
純資産合計	21,995	21,608
負債純資産合計	70,737	73,776

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高	99,178	※1 99,604
売上原価		
商品期首たな卸高	7,425	7,349
当期商品仕入高	79,370	79,387
合計	86,796	86,737
商品期末たな卸高	※2 7,349	※2 8,116
商品売上原価	※2 79,446	※2 78,621
売上総利益	19,732	20,982
不動産賃貸収入	4,303	4,313
営業総利益	24,035	25,296
販売費及び一般管理費		
販売費	4,822	4,988
一般管理費	18,457	19,899
販売費及び一般管理費合計	※3 23,279	※3 24,887
営業利益	756	408
営業外収益		
受取利息	105	111
仕入割引	213	150
受取手数料	203	226
その他	80	114
営業外収益合計	602	601
営業外費用		
支払利息	331	342
その他	38	35
営業外費用合計	369	377
経常利益	989	633
特別利益		
投資有価証券売却益	15	7
テナント解約収入	12	42
補助金収入	69	—
関係会社株式売却益	16	—
特別利益合計	113	49
特別損失		
固定資産除却損	※4 33	※4 9
投資有価証券売却損	11	53
投資有価証券評価損	6	2
関係会社株式評価損	19	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	305
災害による損失	—	61
特別損失合計	71	433
税引前当期純利益	1,031	249
法人税、住民税及び事業税	428	99
法人税等調整額	△288	131
法人税等合計	140	231
当期純利益	891	18

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	10,229	10,229
当期末残高	10,229	10,229
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	9,944	9,944
当期末残高	9,944	9,944
その他資本剰余金		
前期末残高	6	6
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	6	6
資本剰余金合計		
前期末残高	9,951	9,951
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	9,951	9,951
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	526	526
当期末残高	526	526
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金		
前期末残高	5	43
当期変動額		
圧縮記帳積立金の積立	40	—
圧縮記帳積立金の取崩	△1	△3
当期変動額合計	38	△3
当期末残高	43	40
別途積立金		
前期末残高	8,120	2,120
当期変動額		
別途積立金の取崩	△6,000	—
当期変動額合計	△6,000	—
当期末残高	2,120	2,120

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
繰越利益剰余金		
前期末残高	△4,782	1,736
当期変動額		
剰余金の配当	△334	△334
圧縮記帳積立金の積立	△40	—
圧縮記帳積立金の取崩	1	3
別途積立金の取崩	6,000	—
当期純利益	891	18
当期変動額合計	6,519	△312
当期末残高	1,736	1,424
利益剰余金合計		
前期末残高	3,869	4,426
当期変動額		
剰余金の配当	△334	△334
当期純利益	891	18
当期変動額合計	557	△315
当期末残高	4,426	4,111
自己株式		
前期末残高	△2,540	△2,542
当期変動額		
自己株式の取得	△1	△51
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	△1	△51
当期末残高	△2,542	△2,593
株主資本合計		
前期末残高	21,508	22,065
当期変動額		
剰余金の配当	△334	△334
当期純利益	891	18
自己株式の取得	△1	△51
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	556	△366
当期末残高	22,065	21,698

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	△103	△74
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	29	△11
当期変動額合計	29	△11
当期末残高	△74	△85
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	2	4
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1	△8
当期変動額合計	1	△8
当期末残高	4	△4
評価・換算差額等合計		
前期末残高	△101	△70
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	30	△19
当期変動額合計	30	△19
当期末残高	△70	△89
純資産合計		
前期末残高	21,407	21,995
当期変動額		
剰余金の配当	△334	△334
当期純利益	891	18
自己株式の取得	△1	△51
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	30	△19
当期変動額合計	587	△386
当期末残高	21,995	21,608

## ④【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,031	249
減価償却費	1,627	1,849
賞与引当金の増減額 (△は減少)	39	△41
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	31	39
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△2	—
受取利息及び受取配当金	△113	△118
支払利息	331	342
投資有価証券売却損益 (△は益)	△3	46
投資有価証券評価損益 (△は益)	6	2
関係会社株式売却損益 (△は益)	△16	—
関係会社株式評価損	19	—
固定資産除却損	33	9
補助金収入	△69	—
テナント解約収入	△12	△42
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	305
災害損失	—	61
売上債権の増減額 (△は増加)	△23	△219
たな卸資産の増減額 (△は増加)	114	△766
仕入債務の増減額 (△は減少)	205	919
その他	△35	△220
小計	3,163	2,417
利息及び配当金の受取額	24	20
利息の支払額	△293	△306
法人税等の支払額	△495	△443
補助金の受取額	69	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,467	1,687

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△986	△1,962
無形固定資産の取得による支出	△175	△236
投資有価証券の取得による支出	△178	△73
投資有価証券の売却による収入	130	138
敷金及び保証金の差入による支出	△1,234	△731
敷金及び保証金の回収による収入	394	328
預り敷金及び保証金の受入による収入	331	201
預り敷金及び保証金の返還による支出	△639	△503
定期預金の払戻による収入	52	—
店舗賃借仮勘定の支出	△337	△170
関係会社株式の取得による支出	△13	—
関係会社株式の売却による収入	16	—
その他	34	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,603	△2,996
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	8,000	11,000
長期借入金の返済による支出	△8,225	△8,576
自己株式の取得による支出	△1	△51
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△332	△334
リース債務の返済による支出	△23	△72
財務活動によるキャッシュ・フロー	△582	1,965
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△720	650
現金及び現金同等物の期首残高	2,084	1,364
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	—
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,364	※1 2,014

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券</p> <p>①時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</p> <p>②時価のないもの 移動平均法による原価法 なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p>	<p>その他有価証券</p> <p>①時価のあるもの 同左</p> <p>②時価のないもの 同左</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	時価法	同左
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>(1) 商品 売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) ただし、物流センター内の商品は移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p> <p>(2) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p> <p>(会計方針の変更) 従来、商品の評価基準及び評価方法については売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっておりましたが、当事業年度より、物流センター内の商品については、評価方法を移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。この変更は、システム変更により従来に比べ適切な原価の把握が可能になり、在庫評価をより合理的に算定できるようになったためであります。これにより、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は94百万円増加しております。</p>	<p>(1) 商品 同左</p> <p>(2) 貯蔵品 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
4. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>①建物……………定額法</p> <p>②その他……………定率法</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 3～42年</p> <p>また、事業用定期借地権上の建物等については、借地契約期間に基づく耐用年数にて償却を行っております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>ソフトウェア…社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法</p> <p>(3) リース資産</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が適用初年度開始日前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(4) 長期前払費用</p> <p>借地権については、長期前払費用に計上し、賃借期間で均等償却を行っております。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p> <p>(3) リース資産</p> <p>同左</p> <p>(4) 長期前払費用</p> <p>同左</p>
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>	<p>同左</p>
6. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金</p> <p>売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金</p> <p>従業員に支給する賞与の引当額として支給見込額に基づき計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金</p> <p>同左</p> <p>(2) 賞与引当金</p> <p>同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(3) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12～17年）による定額法により按分した額をそれぞれの発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。</p> <p>これに伴う、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p>	<p>(3) 退職給付引当金</p> <p>同左</p> <hr/>
7. ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法</p> <p>繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たす為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段 為替予約、金利スワップ</p> <p>ヘッジ対象 輸入取引、借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針</p> <p>ヘッジ取引を行う場合の取引方針としては、営業取引、資金調達等で発生する通常の取引範囲内で、必要に応じ最小限のリスクで契約を行う方針であり、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>(4) ヘッジの有効性評価の方法</p> <p>為替予約取引すべてが近い将来の購入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため有効性の判定を省略しております。また、特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法</p> <p>同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段 同左</p> <p>ヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針</p> <p>同左</p> <p>(4) ヘッジの有効性評価の方法</p> <p>同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
8. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左
9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式	消費税等の会計処理 同左

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
—————	(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、当事業年度の営業利益及び経常利益は、それぞれ43百万円減少し、税引前当期純利益は、349百万円減少しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																								
<p>※1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>建物</td> <td>6,162百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>17,225 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23,388 "</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td>5,325百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>11,800 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17,125 "</td> </tr> </table>	建物	6,162百万円	土地	17,225 "	計	23,388 "	1年内返済予定の長期借入金	5,325百万円	長期借入金	11,800 "	計	17,125 "	<p>※1. 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>建物</td> <td>5,824百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>17,247 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23,072 "</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td>5,250百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>11,450 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,700 "</td> </tr> </table>	建物	5,824百万円	土地	17,247 "	計	23,072 "	1年内返済予定の長期借入金	5,250百万円	長期借入金	11,450 "	計	16,700 "
建物	6,162百万円																								
土地	17,225 "																								
計	23,388 "																								
1年内返済予定の長期借入金	5,325百万円																								
長期借入金	11,800 "																								
計	17,125 "																								
建物	5,824百万円																								
土地	17,247 "																								
計	23,072 "																								
1年内返済予定の長期借入金	5,250百万円																								
長期借入金	11,450 "																								
計	16,700 "																								
<p>※2. 未払消費税等は、流動負債の未払金に含めて表示しております。</p>	<p>※2. 同左</p>																								

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																										
<p>※2. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 57百万円</p> <p>※3. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td colspan="2">(1)販売費</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>1,574百万円</td> </tr> <tr> <td>物流費</td> <td>2,509 "</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(2)一般管理費</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>6,324百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>391 "</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>110 "</td> </tr> <tr> <td>水道光熱費</td> <td>836 "</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,627 "</td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td>4,364 "</td> </tr> </table> <p>※4. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>器具備品</td> <td>6百万円</td> </tr> <tr> <td>建物(付属設備を含む)</td> <td>3 "</td> </tr> <tr> <td>その他(原状回復費用等)</td> <td>24 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>33 "</td> </tr> </table>	(1)販売費		広告宣伝費	1,574百万円	物流費	2,509 "	(2)一般管理費		従業員給料手当	6,324百万円	賞与引当金繰入額	391 "	退職給付費用	110 "	水道光熱費	836 "	減価償却費	1,627 "	賃借料	4,364 "	器具備品	6百万円	建物(付属設備を含む)	3 "	その他(原状回復費用等)	24 "	計	33 "	<p>※1. 消化仕入による売上の純額が633百万円含まれております。 (追加情報) 当事業年度において、商品が顧客に販売されると同時に商品の仕入が発生する、いわゆる消化仕入と呼ばれる取引について、その重要性が増したため売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上することといたしました。この結果、売上高及び売上原価がそれぞれ5,122百万円減少しております。</p> <p>※2. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 102百万円</p> <p>※3. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td colspan="2">(1)販売費</td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td>1,456百万円</td> </tr> <tr> <td>物流費</td> <td>2,478 "</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(2)一般管理費</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>6,819百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>350 "</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>121 "</td> </tr> <tr> <td>水道光熱費</td> <td>924 "</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,849 "</td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td>4,760 "</td> </tr> </table> <p>※4. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>建物(付属設備を含む)</td> <td>1百万円</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>0 "</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>0 "</td> </tr> <tr> <td>その他(原状回復費用等)</td> <td>7 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9 "</td> </tr> </table>	(1)販売費		広告宣伝費	1,456百万円	物流費	2,478 "	(2)一般管理費		従業員給料手当	6,819百万円	賞与引当金繰入額	350 "	退職給付費用	121 "	水道光熱費	924 "	減価償却費	1,849 "	賃借料	4,760 "	建物(付属設備を含む)	1百万円	車両運搬具	0 "	器具備品	0 "	その他(原状回復費用等)	7 "	計	9 "
(1)販売費																																																											
広告宣伝費	1,574百万円																																																										
物流費	2,509 "																																																										
(2)一般管理費																																																											
従業員給料手当	6,324百万円																																																										
賞与引当金繰入額	391 "																																																										
退職給付費用	110 "																																																										
水道光熱費	836 "																																																										
減価償却費	1,627 "																																																										
賃借料	4,364 "																																																										
器具備品	6百万円																																																										
建物(付属設備を含む)	3 "																																																										
その他(原状回復費用等)	24 "																																																										
計	33 "																																																										
(1)販売費																																																											
広告宣伝費	1,456百万円																																																										
物流費	2,478 "																																																										
(2)一般管理費																																																											
従業員給料手当	6,819百万円																																																										
賞与引当金繰入額	350 "																																																										
退職給付費用	121 "																																																										
水道光熱費	924 "																																																										
減価償却費	1,849 "																																																										
賃借料	4,760 "																																																										
建物(付属設備を含む)	1百万円																																																										
車両運搬具	0 "																																																										
器具備品	0 "																																																										
その他(原状回復費用等)	7 "																																																										
計	9 "																																																										

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	39,611,134	—	—	39,611,134
合計	39,611,134	—	—	39,611,134
自己株式				
普通株式	6,203,528	2,710	86	6,206,152
合計	6,203,528	2,710	86	6,206,152

(注) 1. 普通株式の株式数の増加2,710株は、単元未満株式の買取請求によるものであります。

2. 普通株式の株式数の減少86株は、単元未満株式の売渡しによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	167	5.0	平成21年3月31日	平成21年6月26日
平成21年10月22日 取締役会	普通株式	167	5.0	平成21年9月30日	平成21年12月1日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	167	利益剰余金	5.0	平成22年3月31日	平成22年6月28日

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	39,611,134	—	—	39,611,134
合計	39,611,134	—	—	39,611,134
自己株式				
普通株式	6,206,152	187,078	48	6,393,182
合計	6,206,152	187,078	48	6,393,182

(注) 1. 普通株式の株式数の増加187,078株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加185,300株、単元未満株式の買取請求による増加1,778株であります。

2. 普通株式の株式数の減少48株は、単元未満株式の売渡しによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	167	5.0	平成22年3月31日	平成22年6月28日
平成22年10月22日 取締役会	普通株式	167	5.0	平成22年9月30日	平成22年11月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	166	利益剰余金	5.0	平成23年3月31日	平成23年6月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																						
<p>※1. 現金及び現金同等物の当期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)</p> <table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>1,317百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券</td> <td>46 "</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>1,364 "</td> </tr> </table> <p>2. 重要な非資金取引 当事業年度に吸収合併した株式会社ネットマックスより引継いだ資産及び負債の主な内訳は、次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>流動資産</td> <td>261百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>1 "</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>263 "</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td>161 "</td> </tr> <tr> <td>負債合計</td> <td>161 "</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	1,317百万円	有価証券	46 "	現金及び現金同等物	1,364 "	流動資産	261百万円	固定資産	1 "	資産合計	263 "	流動負債	161 "	負債合計	161 "	<p>※1. 現金及び現金同等物の当期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日現在)</p> <table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>1,968百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券</td> <td>46 "</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>2,014 "</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	1,968百万円	有価証券	46 "	現金及び現金同等物	2,014 "
現金及び預金勘定	1,317百万円																						
有価証券	46 "																						
現金及び現金同等物	1,364 "																						
流動資産	261百万円																						
固定資産	1 "																						
資産合計	263 "																						
流動負債	161 "																						
負債合計	161 "																						
現金及び預金勘定	1,968百万円																						
有価証券	46 "																						
現金及び現金同等物	2,014 "																						

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																																																				
<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容 店舗</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物</td> <td>9,148</td> <td>3,639</td> <td>5,508</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>486</td> <td>333</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,634</td> <td>3,972</td> <td>5,661</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、利息法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>1,577百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>4,683 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,260 "</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、利息法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>881百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>688 "</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>148 "</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <p>店舗のうち、9店舗については、土地・建物等をリース契約により使用しております。</p> <p>未経過リース料</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>1,593百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>9,405 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10,999 "</td> </tr> </table> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありませんので、項目等の記載は省略しております。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物	9,148	3,639	5,508	器具備品	486	333	152	合計	9,634	3,972	5,661	1年内	1,577百万円	1年超	4,683 "	合計	6,260 "	支払リース料	881百万円	減価償却費相当額	688 "	支払利息相当額	148 "	1年内	1,593百万円	1年超	9,405 "	合計	10,999 "	<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容 同左</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物</td> <td>8,172</td> <td>2,363</td> <td>5,808</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>452</td> <td>390</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,624</td> <td>2,754</td> <td>5,869</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、利息法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>513百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>5,811 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,325 "</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、利息法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>832百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>654 "</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>131 "</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>2,661百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>19,784 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22,446 "</td> </tr> </table> <p>(減損損失について) 同左</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物	8,172	2,363	5,808	器具備品	452	390	61	合計	8,624	2,754	5,869	1年内	513百万円	1年超	5,811 "	合計	6,325 "	支払リース料	832百万円	減価償却費相当額	654 "	支払利息相当額	131 "	1年内	2,661百万円	1年超	19,784 "	合計	22,446 "
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																																																		
建物	9,148	3,639	5,508																																																																		
器具備品	486	333	152																																																																		
合計	9,634	3,972	5,661																																																																		
1年内	1,577百万円																																																																				
1年超	4,683 "																																																																				
合計	6,260 "																																																																				
支払リース料	881百万円																																																																				
減価償却費相当額	688 "																																																																				
支払利息相当額	148 "																																																																				
1年内	1,593百万円																																																																				
1年超	9,405 "																																																																				
合計	10,999 "																																																																				
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																																																		
建物	8,172	2,363	5,808																																																																		
器具備品	452	390	61																																																																		
合計	8,624	2,754	5,869																																																																		
1年内	513百万円																																																																				
1年超	5,811 "																																																																				
合計	6,325 "																																																																				
支払リース料	832百万円																																																																				
減価償却費相当額	654 "																																																																				
支払利息相当額	131 "																																																																				
1年内	2,661百万円																																																																				
1年超	19,784 "																																																																				
合計	22,446 "																																																																				

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																												
<p>3. ファイナンス・リース取引（貸主側）</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却 累計額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: center;">78</td> <td style="text-align: center;">46</td> <td style="text-align: center;">31</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">78</td> <td style="text-align: center;">46</td> <td style="text-align: center;">31</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">5百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">26 〃</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">31 〃</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の合計額が、営業債権の期末残高等に占める割合が低いため、受取利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 受取リース料及び減価償却費</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取リース料</td> <td style="text-align: right;">5百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">5 〃</td> </tr> </table> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありませんので、項目等の記載は省略しております。</p>		取得価額 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)	建物及び構築物	78	46	31	合計	78	46	31	1年内	5百万円	1年超	26 〃	合計	31 〃	受取リース料	5百万円	減価償却費	5 〃	<p>3. ファイナンス・リース取引（貸主側）</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却 累計額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: center;">78</td> <td style="text-align: center;">52</td> <td style="text-align: center;">26</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">78</td> <td style="text-align: center;">52</td> <td style="text-align: center;">26</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">5百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">21 〃</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">26 〃</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の合計額が、営業債権の期末残高等に占める割合が低いため、受取利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 受取リース料及び減価償却費</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取リース料</td> <td style="text-align: right;">5百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">5 〃</td> </tr> </table> <p>(減損損失について) 同左</p>		取得価額 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)	建物及び構築物	78	52	26	合計	78	52	26	1年内	5百万円	1年超	21 〃	合計	26 〃	受取リース料	5百万円	減価償却費	5 〃
	取得価額 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)																																										
建物及び構築物	78	46	31																																										
合計	78	46	31																																										
1年内	5百万円																																												
1年超	26 〃																																												
合計	31 〃																																												
受取リース料	5百万円																																												
減価償却費	5 〃																																												
	取得価額 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)																																										
建物及び構築物	78	52	26																																										
合計	78	52	26																																										
1年内	5百万円																																												
1年超	21 〃																																												
合計	26 〃																																												
受取リース料	5百万円																																												
減価償却費	5 〃																																												

(金融商品関係)

前事業年度（自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、安全性、流動性、及び収益性を考慮した運用を行っております。有価証券及び投資有価証券は、主として株式であり、定期的に時価の把握を行っております。

資金調達については、運転資金及び設備投資資金をその用途とし、銀行等金融機関からの借入を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

差入保証金は、主として店舗の賃借に伴い発生する差入保証金であり、差入先の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金の用途は、運転資金および設備投資資金であり、一部の長期借入金に係る金利の変動リスクに対しては、金利スワップ取引を実施してヘッジしております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であり、投機的な取引は行わない方針であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

差入保証金については、差入先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建て営業債務の為替変動リスクに対して、一部先物為替予約を利用してヘッジしております。為替予約の執行・管理については、担当部署が決裁担当者の承認を得て行い、定期的に残高の報告を行っております。

借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	1,317	1,317	—
(2) 有価証券	46	46	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	498	498	—
(4) 差入保証金	6,261	6,202	△58
(5) 支払手形	(7,368)	(7,368)	—
(6) 買掛金	(5,816)	(5,816)	—
(7) 長期借入金	(22,175)	(22,369)	△194
(8) デリバティブ取引	6	6	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券、(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、その他の有価証券等については取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価については、返還金の額を与信管理上の信用リスク区分ごとに、そのキャッシュ・フローを、適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 支払手形、(6) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

① 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

② 時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(8) デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

① 通貨関連

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。なお、振当処理の要件を満たす為替予約については振当処理を採用しております。

② 金利関連

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式（貸借対照表計上額20百万円）については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

差入敷金（貸借対照表計上額3,805百万円）及び預り敷金（貸借対照表計上額4,037百万円）については、返還時期の確定が行えないため、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	949	—	—	—
差入保証金	534	1,507	2,923	1,295

4. 長期借入金の決算日後の返済予定額

附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、安全性、流動性、及び収益性を考慮した運用を行っております。有価証券及び投資有価証券は、主として株式であり、定期的到时価の把握を行っております。

資金調達については、運転資金及び設備投資資金をその使途とし、銀行等金融機関からの借入を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

差入保証金は、主として店舗の賃借に伴い発生する差入保証金であり、差入先の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金の使途は、運転資金および設備投資資金であり、一部の長期借入金に係る金利の変動リスクに対しては、金利スワップ取引を実施してヘッジしております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建の営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であり、投機的な取引は行わない方針であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

差入保証金については、差入先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建て営業債務の為替変動リスクに対して、一部先物為替予約を利用してヘッジしております。為替予約の執行・管理については、担当部署が決裁担当者の承認を得て行い、定期的に残高の報告を行っております。

借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	1,968	1,968	—
(2) 有価証券	46	46	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	396	396	—
(4) 差入保証金	6,436	6,443	6
資産計	8,847	8,854	6
(1) 支払手形	7,316	7,316	—
(2) 買掛金	6,867	6,867	—
(3) 長期借入金	24,598	24,737	△138
負債計	38,782	38,921	△138
デリバティブ取引(*)	(7)	(7)	—

(\*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券、(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、その他の有価証券等については取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価については、返還金の額を与信管理上の信用リスク区分ごとに、そのキャッシュ・フローを、適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形、(2) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

① 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

② 時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式（貸借対照表計上額8百万円）については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

差入敷金（貸借対照表計上額4,332百万円）及び預り敷金（貸借対照表計上額3,999百万円）については、返還時期の確定が行えないため、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	1,563	—	—	—
差入保証金	298	1,418	3,568	1,151

4. 長期借入金の決算日後の返済予定額

附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前事業年度（平成22年3月31日現在）

1. その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるも の	(1) 株式	59	50	8
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	59	50	8
貸借対照表計上額が 取得原価を超えない もの	(1) 株式	331	417	△86
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	154	201	△47
	小計	486	619	△133
	合計	545	670	△124

(注) 非上場株式（貸借対照表計上額 20百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当事業年度中に売却したその他有価証券

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	108	11	10
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	6	—	0
③ その他	—	—	—
(3) その他	22	3	—
合計	136	15	11

3. 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、有価証券について6百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当事業年度（平成23年3月31日現在）

1. その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	13	10	3
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	小計	13	10	3
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	306	420	△114
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	122	155	△32
	小計	428	576	△147
	合計	442	586	△143

(注) 非上場株式（貸借対照表計上額 8百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当事業年度中に売却したその他有価証券

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	110	7	18
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	15	—	35
合計	126	7	53

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	前事業年度(平成22年3月31日)		
			契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引(買建) 米ドル	買掛金	158	—	6

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	前事業年度(平成22年3月31日)		
			契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
金利スワップ等の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	1,000	800	(注)

(注) 時価の算定方法

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当事業年度(平成23年3月31日)		
			契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引(買建) 米ドル	買掛金	174	—	△7

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当事業年度(平成23年3月31日)		
			契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
金利スワップ等の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	1,800	1,400	(注)

(注) 時価の算定方法

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出企業型年金制度、前払退職金制度及び退職一時金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成22年3月31日) (百万円)	当事業年度 (平成23年3月31日) (百万円)
(1) 退職給付債務	△516	△555
(2) 年金資産	—	—
(3) 未積立退職給付債務((1)+(2))	△516	△555
(4) 未認識数理計算上の差異	△44	△36
(5) 未認識過去勤務債務の額	82	74
(6) 貸借対照表計上額純額((3)+(4)+(5))	△478	△517
(7) 前払年金費用	—	—
(8) 退職給付引当金((6)-(7))	△478	△517

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) (百万円)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) (百万円)
(1) 勤務費用	42	44
(2) 利息費用	9	10
(3) 数理計算上の差異の費用処理額	△4	△4
(4) 過去勤務債務の額の費用処理額	8	8
(5) 前払退職金支給額	3	4
(6) 確定拠出年金への掛金支払額	52	59
(7) 退職給付費用((1)+(2)+(3)+(4)+(5)+(6))	110	121

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
(1) 割引率 (%)	2.0%	2.0%
(2) 期待運用収益率 (%)	—	—
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(4) 過去勤務債務の処理年数 (年)	12 (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。)	12 同左
(5) 数理計算上の差異の処理年数 (年)	12~17 (各事業年度の発生時において従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際事業年度から費用処理することとしております。)	12~17 同左

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産	繰延税金資産
長期未払金(役員退職慰労金) 86百万円	長期未払金(役員退職慰労金) 86百万円
退職給付引当金 193 "	退職給付引当金 209 "
賞与引当金 158 "	賞与引当金 141 "
棚卸資産 339 "	棚卸資産 380 "
減価償却超過額 228 "	減価償却超過額 282 "
減損損失 1,897 "	減損損失 1,803 "
店舗閉鎖損失 221 "	資産除去債務 339 "
その他有価証券評価差額金 50 "	その他有価証券評価差額金 54 "
その他 355 "	その他 377 "
繰延税金資産小計 3,530 "	繰延税金資産小計 3,676 "
評価性引当額 △2,044 "	評価性引当額 △2,090 "
繰延税金資産合計 1,486 "	繰延税金資産合計 1,585 "
繰延税金負債	繰延税金負債
固定資産圧縮記帳積立金 △29 "	資産除去債務 △198 "
その他 △245 "	固定資産圧縮記帳積立金 △27 "
繰延税金負債合計 △274 "	その他 △265 "
繰延税金資産の純額 1,211 "	繰延税金負債合計 △491 "
	繰延税金資産の純額 1,093 "
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳
法定実効税率 40.4%	法定実効税率 40.4%
(調整)	(調整)
交際費等永久に損金に算入されない項目 2.1 "	交際費等永久に損金に算入されない項目 1.0 "
住民税均等割等 7.2 "	住民税均等割等 34.2 "
評価性引当額 △36.8 "	評価性引当額 18.9 "
その他 0.7 "	その他 △1.9 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率 13.6 "	税効果会計適用後の法人税等の負担率 92.6 "

(企業結合等関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

共通支配下の取引等

1. 結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

合併存続会社 企業の名称：株式会社ミスターマックス

事業の内容：総合ディスカウントストア

合併消滅会社 企業の名称：株式会社ネットマックス

事業の内容：インターネットを利用した商品の販売等

(2) 企業結合の法的形式

株式会社ミスターマックスを存続会社とする吸収合併方式

(3) 結合後企業の名称

株式会社ミスターマックス

(4) 取引の目的を含む取引の概要

社内資源を集約することで、ネット販売事業の本来の目的である「拡大するネット市場への参入、情報発信と収集、実在店舗の補完」を達成すべく、業務の再構築を図るため、平成21年12月1日付けで、株式会社ミスターマックスを存続会社とする吸収合併を行いました。

なお、消滅会社である株式会社ネットマックスは存続会社である株式会社ミスターマックスが直接100%の株式を所有する子会社であるため、合併による新株式の発行及び資本金の増加はありません。

2. 実施した会計処理の概要

当該吸収合併は、「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第10号 平成19年11月15日)に基づき、共通支配下の取引として処理を行っております。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

販売施設の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

各販売施設毎に、使用見込期間(20~40年)を見積り、期間に応じた割引率(2.1%~2.2%)を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高(注)	766百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	57
時の経過による調整額	17
資産除去債務の履行による減少額	—
その他増減額(△は減少)	—
期末残高	840

(注) 当事業年度より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

当社は、東京都、福岡県、及びその他の地域において、賃貸商業施設を有しております。平成22年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は947百万円(賃貸収益は不動産賃貸収入に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当事業年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

貸借対照表計上額(百万円)			当事業年度末の時価 (百万円)
前事業年度末残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
8,816	△245	8,571	6,279

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
2. 当事業年度増減額のうち、主な増加額は不動産取得(94百万円)、主な減少額は減価償却費であります。  
3. 当期末の時価は、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書の金額等に基づく価額であります。

(追加情報)

当事業年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

当事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

当社は、東京都、福岡県、及びその他の地域において、賃貸商業施設を有しております。平成23年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は843百万円(賃貸収益は不動産賃貸収入に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当事業年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

貸借対照表計上額(百万円)			当事業年度末の時価 (百万円)
前事業年度末残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
8,571	△250	8,320	6,008

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
2. 当事業年度増減額のうち、主な増加額は不動産取得(83百万円)、主な減少額は減価償却費であります。  
3. 当期末の時価は、鑑定評価額等を基に合理的に調整した価額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

当社は、小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

当事業年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連情報】

当事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

	食品	家電	HBC	ライフスタイル	ホームリビング	アパレル	その他	合計 (百万円)
外部顧客への売上高	23,953	21,850	18,913	16,014	11,602	7,199	70	99,604

## 2. 地域ごとの情報

### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

### 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

### 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

### 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

### 【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者	平野 比左志	—	—	当社創業者	(被所有) 直接 0.00 間接 19.38	—	顧問料の 支払※2	15	—	—
役員及びその近親者が 議決権の過半数を所有 している会社	マイティ・イン コーポレー ション(株)※3	福岡県 福岡市	40	損害保険の 代理業務等	(被所有) 直接 1.21	損害保険 取引	保険料の 支払※4	61	—	—

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当社創業者としての地位に基づき、月額1百万円を支払っております。

3. マイティ・インコーポレーション(株)は、役員の子が100%直接所有しております。

4. マイティ・インコーポレーション(株)は、日本興亜損害保険(株)の保険代理店であり、取引金額は当社がマイティ・インコーポレーション(株)を通じて日本興亜損害保険(株)に支払った保険料であります。また保険料については通常取引の保険料率に基づき決定しております。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者	平野 比左志	—	—	当社創業者	(被所有) 直接 0.00 間接 19.48	—	顧問料の 支払※2	15	—	—
役員及びその近親者が 議決権の過半数を所有 している会社	マイティ・イン コーポレー ション(株)※3	福岡県 福岡市	40	損害保険の 代理業務等	(被所有) 直接 1.22	損害保険 取引	保険料の 支払※4	95	—	—

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当社創業者としての地位に基づき、月額1百万円を支払っております。

3. マイティ・インコーポレーション(株)は、役員の子が100%直接所有しております。

4. マイティ・インコーポレーション(株)は、日本興亜損害保険(株)の保険代理店であり、取引金額は当社がマイティ・インコーポレーション(株)を通じて日本興亜損害保険(株)に支払った保険料であります。また保険料については通常取引の保険料率に基づき決定しております。

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額 658.44円	1株当たり純資産額 650.52円
1株当たり当期純利益金額 26.69〃	1株当たり当期純利益金額 0.55〃
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	891	18
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	891	18
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,406	33,390

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	30,945	1,574	7	32,512	17,204	1,067	15,307
構築物	4,371	137	3	4,505	3,724	109	781
車両運搬具	35	2	0	37	34	2	3
工具、器具及び備品	3,784	625	40	4,369	3,106	373	1,262
土地	27,367	21	—	27,389	—	—	27,389
リース資産	863	445	—	1,309	95	72	1,213
建設仮勘定	6	1,310	1,306	10	—	—	10
有形固定資産計	67,375	4,117	1,358	70,133	24,166	1,626	45,967
無形固定資産							
ソフトウェア	782	226	70	937	499	135	438
電話加入権	25	—	—	25	—	—	25
無形固定資産計	807	226	70	963	499	135	463
長期前払費用	2,309	130	257	2,181	671	87	1,510

(注) 1. 当期増加額の主な内容は次のとおりであります。

建物	春日店	696 百万円	越谷店	122 百万円
工具、器具及び備品	春日店	148 百万円	越谷店	93 百万円
リース資産	吉塚店	445 百万円		
建設仮勘定	春日店	894 百万円	越谷店	125 百万円

2. 当期減少額の主な内容は次のとおりであります。

建物	東京本部	7 百万円		
工具、器具及び備品	本部	35 百万円		
建設仮勘定	春日店	894 百万円	越谷店	129 百万円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	7,725	8,486	1.0	—
1年以内に返済予定のリース債務	66	88	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	14,450	16,112	0.9	平成24年～28年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	773	1,124	—	平成24年～42年
其他有利子負債	—	—	—	—
合計	23,015	25,811	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各事業年度に配分しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	6,453	4,570	2,953	2,135
リース債務	88	88	88	88

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	5	—	—	—	5
賞与引当金	391	350	391	—	350

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

(イ) 現金及び預金

区分	金額 (百万円)
現金	404
預金	
普通預金	1,562
別段預金	1
小計	1,563
合計	1,968

(ロ) 売掛金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
(株)セディナ	371
(株)ジェーシービー	268
三井住友カード(株)	199
三菱UFJニコス(株)	119
ユーシーカード(株)	98
その他	181
合計	1,239

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率 (%)	滞留日数 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
1,146	31,180	31,087	1,239	96.2	14.0

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## (ハ)商品

区分	分類別金額 (百万円)	部門別金額 (百万円)
家電		2,318
・ビジュアル (映像)	652	
・台所用家電品	474	
・家事用家電品	411	
・その他 (オーディオ他)	780	
アパレル		941
・服飾雑貨品	249	
・時計・宝飾品	234	
・シューズ	140	
・その他 (紳士・婦人衣料他)	317	
ライフスタイル		1,885
・玩具・エンタテイメント	608	
・カー用品	281	
・スポーツ用品	265	
・その他 (ペット用品他)	728	
ホームリビング		1,073
・キッチン用品	410	
・収納用品	251	
・家庭用品	227	
・インテリア用品	183	
HBC		1,183
・ビューティケア用品	341	
・ドラッグ	258	
・ハウスホールド用品	237	
・その他 (サニタリー用品他)	346	
食品		711
・酒	196	
・菓子	191	
・飲料	155	
・その他 (加工食品他)	168	
その他		2
・企画	2	
合計	8,116	8,116

## (ニ)貯蔵品

区分	金額 (百万円)
シール等印刷物類	43
包装紙類	16
合計	60

## (ホ) 敷金

相手先	金額 (百万円)
三菱UFJ信託銀行(株)	408
NOK(株)	392
越谷ゴム工業(株)	330
(株)マルハニチロ水産	322
小田急電鉄(株)	300
その他	2,580
合計	4,332

## (ヘ) 差入保証金

相手先	金額 (百万円)
(株)芙蓉総合リース	2,027
小田急電鉄(株)	1,088
三井住友ファイナンス&リース(株)	992
西部ガス興商(株)	601
大和リース(株)	594
その他	1,131
合計	6,436

## ② 負債の部

## (イ) 支払手形

## (a) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
(株)山善	794
小泉成器(株)	398
(株)ドウシヤ	314
象印マホービン(株)	301
アイリスオーヤマ(株)	293
その他	5,212
合計	7,316

## (b) 期日別内訳

期日	金額 (百万円)
平成23年4月	3,792
5月	2,048
6月	1,369
7月	105
合計	7,316

## (ロ)買掛金

相手先	金額 (百万円)
花王カスタマーマーケティング㈱	369
㈱あらた	345
㈱山星屋	285
㈱山善	256
パナソニックコンシューマーマーケティング㈱	212
その他	5,397
合計	6,867

## (ハ) 設備関係支払手形

## (a) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
りんかい日産建設㈱	42
ジーク㈱	34
㈱ナカノフドー建設	16
その他	20
合計	114

## (b) 期日別内訳

期日	金額 (百万円)
平成23年 4月	47
5月	61
6月	1
7月	3
合計	114

## (ニ) 一年内返済予定の長期借入金

相手先	金額 (百万円)
㈱福岡銀行	2,800
三菱UFJ信託銀行㈱	1,250
㈱山口銀行	1,200
㈱西日本シティ銀行	1,100
㈱三菱東京UFJ銀行	799
その他	1,336
合計	8,486

## (ホ)長期借入金

相手先	金額 (百万円)
(株)福岡銀行	4,150
三菱UFJ信託銀行(株)	2,500
(株)山口銀行	2,350
(株)西日本シティ銀行	2,250
(株)埼玉りそな銀行	1,728
その他	3,133
合計	16,112

## (ヘ)長期預り敷金

相手先	金額 (百万円)
(株)大創産業	518
(株)三和	114
(株)メガネトップ	101
(株)ライトオン	101
(株)三城	98
その他	3,065
合計	3,999

## (3) 【その他】

## 当事業年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高 (百万円)	23,060	25,911	27,167	23,465
税引前四半期純利益金額又は 税引前四半期純損失金額 (△) (百万円)	△280	180	181	168
四半期純利益金額又は四半期 純損失金額 (△) (百万円)	△301	77	130	111
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額 (△) (円)	△9.03	2.33	3.90	3.35

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取・売渡手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 _____  無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 (公告掲載URL <a href="http://www.mrmax.co.jp/">http://www.mrmax.co.jp/</a> )
株主に対する特典	ありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、以下の権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第61期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月25日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月25日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第62期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月11日関東財務局長に提出

（第62期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月11日関東財務局長に提出

（第62期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月10日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成22年7月2日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自平成22年11月12日 至平成22年11月30日） 平成22年12月6日関東財務局長に提出

報告期間（自平成22年12月1日 至平成22年12月31日） 平成23年1月11日関東財務局長に提出

報告期間（自平成23年1月1日 至平成23年1月31日） 平成23年2月14日関東財務局長に提出

報告期間（自平成23年2月1日 至平成23年2月28日） 平成23年3月7日関東財務局長に提出

報告期間（自平成23年3月1日 至平成23年3月31日） 平成23年4月5日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月25日

株式会社 ミスターマックス

(商号 株式会社 Mr M a x)

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 工藤 雅春 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村田 賢治 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 Mr M a x）の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第61期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 Mr M a x）の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 Mr M a x）の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 Mr M a x）が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月24日

株式会社 ミスターマックス

(商号 株式会社 MrMax)

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 工藤 雅春 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村田 賢治 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 MrMax）の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第62期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 MrMax）の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

会計処理方法の変更に記載されているとおり、当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 MrMax）の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ミスターマックス（商号 株式会社 MrMax）が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。